



結び

平成23年度卒

松田 憲洋

出身

藍川中サッカー部
岐阜市立藍川中学校

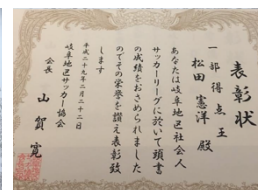
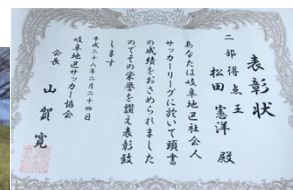
『挑戦し続ける』

私は、中学校3年生の10月に関商工の部活動体験会に中学の顧問から勧められ、当時チームメイトだった同級生と一緒に参加しました。そこで高校のグラウンド環境や、サッカーのレベルの高さに圧倒されて私も高いレベルで挑戦し、強くなりたいと思い関商工高校を選びました。

3年間で得たことは、「挑戦し続ける」事です。私自身、小学校から高校までレギュラーではありませんでしたが、絶対にレギュラーになりたいという思いで練習に励みました。最終的に、試合に出ることは叶いませんでしたが、ずっと挑戦し続けることの大切さを学びました。

自分のストロングポイントである左足を磨き続けて、セカンドチームで挑んだG3リーグ得点王になれたことが今でも財産であり、そこで認められて最後の選手権予選ではトップチームのメンバーに選んでいただいたことが誇りでもあります。また、当時の市川監督から「心技体」の「心」の部分の磨くようにと口酸っぱく言われました。試合に出ていないが故にメンタル的に自信がなく、プレーも上手いかない時もありましたが、誰よりもサッカーが上手くなりたいという思いが強く、自主練も必死に行い、取り組む姿勢から変えていきました。日常生活においても、挨拶や返事を爽やかに行うことにより、他者が気持ち良くなるという事を改めて学ぶことが出来ました。

卒業後は、地元で働きながら高校のチームメイトとサッカーを続けたいと意気投合し、社会人チーム「SFIDA」を立ち上げました。当初は岐阜地区2部リーグからスタートし2年間、リーグ戦では無敗で優勝し岐阜県リーグ2部に昇格することが出来ました。その2年間チームメイトのおかげと、高校時代に試合に出られなかった悔しさをバネに得点王を獲得し、賞金もいただきました。また、全国社会人サッカー選手権岐阜県予選においてFC岐阜セカンドと対戦しPKまでもつれ負けましたが、強豪相手に互角に戦えたことがSFIDAの一番の思い出となっております。



社会人サッカーを続けながら、自分が今まで教わったことを地元の子供達に伝えたいと思い、出身である芥見サッカースポーツ少年団のコーチをやり始めました。それまで人に何かを伝えたりするのが全く出来なくて指導の難しさを感じながらも、得点や勝利した後の子供達の笑顔を見ることにより、より一層指導者としての深みとコクを追求していきたいと思いました。教え子には高校日本代表選抜に選出された選手や、今でもプロサッカー選手を目指してサッカーに励んでいる選手がおり、私自身とても良い刺激となっております。



2019年高校サッカーの試合会場にて高校時代の恩師である市川監督と再会し、サッカーの指導について色々助言をいただく中で「これまでの経験を活かし指導をして欲しい」と言われ、関商工高校がある関市のFCフォレスト関で指導することになり、現在はスクール指導者として小学生を教えています。指導することでサッカー熱が再び咲き、指導しながらビーチサッカーという新しい競技に出会い、高校時代に得た「挑戦し続ける」事を思い出しスタートを切りました。

「海のない町からビーチサッカーを」を合言葉に、岐阜県で唯一のプロビーチサッカークラブ「エラシカ岐阜BS」<https://elastica.amebaownd.com> に所属しています。ビーチサッカーとは青空の下、砂浜を裸足で駆け巡ります。サッカーとは違い砂浜はピッチが凸凹の為パスが繋がらない分、リフティングパスやオーバーヘッドなどのアクロバティックなプレーが繰り広げられるのが魅力的なスポーツです。2022年現在、エラシカ岐阜BSは東海リーグに所属し、全国大会を目標にトレーニングに励んでいます。高校時代までレギュラーになれなかったが、こうして挑戦し続ける事が、現日本代表の選手やW杯に出場した選手との対戦に繋がり、今では貴重な経験となっています。今後、ビーチサッカーという競技を岐阜県の中で更に広め、サッカー少年がビーチサッカーも選択肢の一つとしてやり始めるきっかけを作れるようもっと活躍をし、生まれ育った岐阜に恩返しできるようにエラシカ岐阜BSで精進していきます。



私は関商工高校で多くのことを学びました。私がセカンドチームだったからこそ、現在セカンドチームに所属している選手は諦めずにサッカーに取り組み、トップチームに這い上げられるようひたむきに頑張ってください。卒業後どんな形でもサッカーに携わることができるので、今という貴重な時間を一瞬一瞬大切に、人生を懸ける思いで取り組んでください。